

第11章 グリーン関数に対する摂動論

Ryoi Ohashi

Department of Applied Physics, Nagoya University

July 16, 2018

目的

- グリーン関数を用いた摂動展開手法を学ぶ
- 熱力学ポテンシャル Ω をグリーン関数より導出する

目次

- ① T 指数関数および T 記号の性質
- ② グリーン関数に対する表式
- ③ グリーン関数に対するファインマン図形
- ④ 自己エネルギー (self-energy)
- ⑤ 電子ガスへの応用

復習

ハミルトニアンが $H = H_0 + H'$, $\mathcal{H} = H + \mu N$ のとき
 以下のように定義を行う.

1 体のグリーン関数

$$G_r[u, u'] = - \langle T A_r(u) A_r^\dagger(u') \rangle \quad (1)$$

- r は状態を表す指数
- $A_r^{(\dagger)}(u)$ は $a_r^{(\dagger)}$ のハイゼンベルグ表示
- $\langle X \rangle$ は演算子 X の大正準集団に対する平均

$$\langle X \rangle = \text{tr}(X e^{-\beta \mathcal{H}}) / \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}}) \quad (3)$$

復習

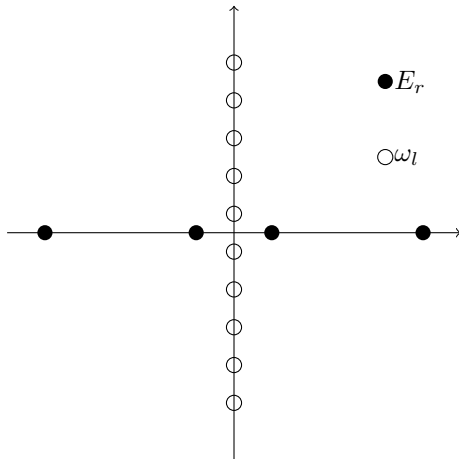
u に対して ω という量を定義することで, フーリエ級数展開を行える.

$$G_r[u, u'] = \frac{1}{\beta} \sum_l G_r(i\omega_l) e^{-i\omega_l(u-u')} \quad (1)$$

フェルミ粒子であれば, ω_l は次のような離散的な値をとる.

$$\omega_l = (2l+1)\pi/\beta, \quad l \in \mathbb{Z} \quad (2)$$

復習



- 1 T 指数関数および T 記号の性質
- 2 グリーン関数に対する表式
- 3 グリーン関数に対するファインマン図形
- 4 自己エネルギー (self-energy)
- 5 電子ガスへの応用

$U(\beta)$ を次のように定める

$$e^{-\beta\mathcal{H}} = e^{-\beta\mathcal{H}_0}U(\beta) \quad (7)$$

(8.22) により, $U(\beta)$ は摂動展開した形になる

$$U(\beta) = 1 + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n!} \int_0^\beta P \left[H'(u_1) \cdots H'(u_n) \right] du_1 \cdots du_n \quad (3)$$

P は Wick の記号 (P.132) である

Wick の記号

時間の大きさの順に並べる際に,

- 奇数回の置換なら $-$ 符号
- 偶数回の置換なら $+$ 符号

をつける

T 記号

時間順序積を示す記号

a, a' 偶数個でできている演算子 C について次が成立する

$$T[C(1), C(2)] = P[C(2), C(1)] \quad (16)$$

$$T[a^{(\dagger)}(1), C(2)] = T[C(2), a^{(\dagger)}(1)] \quad (17)$$

H' が a, a' を偶数個含んでいる場合は,
 P を T で置き換えが可能となる

- ① T 指数関数および T 記号の性質
- ② グリーン関数に対する表式
- ③ グリーン関数に対するファインマン図形
- ④ 自己エネルギー (self-energy)
- ⑤ 電子ガスへの応用

$U^{-1}(u)$ を次のように定める

$$(e^{-u\mathcal{H}})^{-1} = (e^{-u\mathcal{H}_0}U(u))^{-1} = U^{-1}(u)e^{u\mathcal{H}_0} \quad (18)$$

これを用いて次の表記を定義する

$$U(u, u') = U(u)U^{-1}(u') = T \exp \left[- \int_{u'}^u H'(u_1) du_1 \right] \quad (24)$$

以降, a_r に対して

- $a_r(u) = e^{u\mathcal{H}_0} a_r e^{-u\mathcal{H}_0}$: 相互作用表示
- $A_r(u) = e^{u\mathcal{H}} a_r e^{-u\mathcal{H}}$: ハイゼンベルグ表示

と表記する

グリーン関数をこの $U(\beta)$ を用いて変形する

Recall

$$G_r[u, u'] = - \langle T A_r(u) A_r^\dagger(u') \rangle \quad (1)$$

$u > u'$ と仮定すると

$$\begin{aligned}
 G_r[u, u'] &= \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}} A_r(u) A_r^\dagger(u')) / \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}}) \\
 &= \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}} A_r(u) A_r^\dagger(u')) / Z_{G0} < U(\beta) >_0
 \end{aligned}$$

分子について

$$\begin{aligned}
 \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}} A_r(u) A_r^\dagger(u')) &= \text{tr}(e^{-\beta \mathcal{H}_0} U(\beta, u) a_r(u) U(u, u') a_r^\dagger(u') U(u', 0)) \\
 &= \text{tr} \left(e^{-\beta \mathcal{H}_0} T \left[\exp \left\{ - \int_0^\beta H'(u_1) du_1 \right\} a_r(u) a_r^\dagger(u') \right] \right) \quad (27)
 \end{aligned}$$

グリーン関数

$$G_r[u, u'] = - \frac{\left\langle T \left[\exp \left\{ - \int_0^\beta H'(u_1) du_1 \right\} a_r(u) a_r^\dagger(u') \right] \right\rangle_0}{\left\langle T \left[\exp \left\{ - \int_0^\beta H'(u_1) du_1 \right\} \right] \right\rangle_0} \quad (28)$$

この結果は $u > u'$ と同様に $u < u'$ でも成立する
 記号的に次のような表記もする

$$G_r[u, u'] = \frac{- \left\langle T U(\beta) a_r(u) a_r^\dagger(u') \right\rangle_0}{\langle U(\beta) \rangle_0} \quad (29)$$

- ① T 指数関数および T 記号の性質
- ② グリーン関数に対する表式
- ③ グリーン関数に対するファインマン図形
- ④ 自己エネルギー (self-energy)
- ⑤ 電子ガスへの応用

グリーン関数はフーリエの形で次のようになる

$$G_r[u, u'] = \frac{1}{\beta} \sum_l G_r(i\omega_l) e^{-i\omega_l(u-u')} \quad (4)$$

この時の $G_r(i\omega)$ はどのように求めるのか?



次のページの順序に従うと計算可能!

計算手順

- ① 外線とつながった n 次のすべての可能なファインマン図形を描く
- ② そのような図形に次の式を当てはめる

$$\frac{(-1)^n (-1)^{n_l}}{n! (2\beta V)^n} \prod_{i=1}^n (r_i s_i | v | r'_i s'_i)$$

- ③ r, l の電子線に次の式を対応させる

$$g_r(i\omega_l) = (i\omega_l - \varepsilon_r)^{-1}$$

同時刻の場合は

$$(i\omega_l - \varepsilon_r)^{-1} \exp(i\omega_l 0)$$

- ④ エネルギー保存則を考慮する

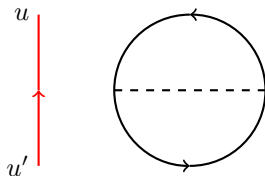
$$\omega_{l_1} + \omega_{l_2} = \omega_{l_3} + \omega_{l_4}$$

- ⑤ 外線の r, l は固定し、他の変数に関して和をとる

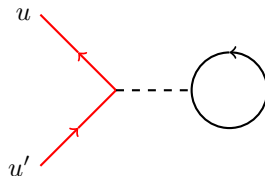
外線

外線とは

u' から出ている線, 及び u に入る線



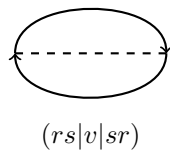
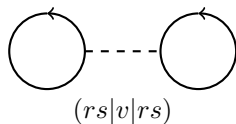
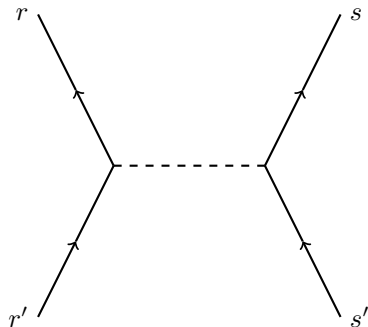
つながらない図形



つながった図形

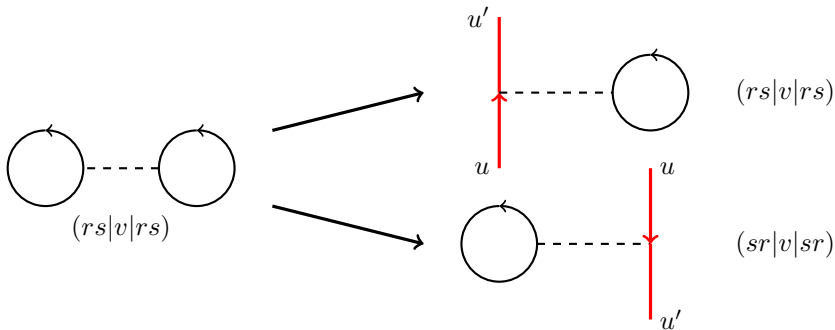
例:1次でのファインマン図

図 8.2 より一次のファインマン図は次の二通り



例:1 次でのファインマン図

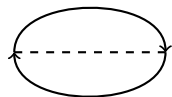
片方の線を外線と結ぶように開く



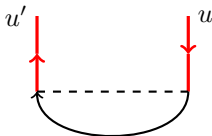
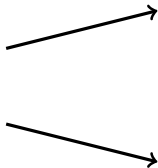
閉じた図形の数 $n_l = 1$

例:1 次でのファインマン図

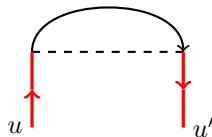
片方の線を外線と結ぶように開く



$$(rs|v|sr)$$



$$(sr|v|rs)$$



$$(rs|v|sr)$$

閉じた図形の数 $n_l = 0$

計算手順 (Remind)

- ① 外線とつながった n 次のすべての可能なファインマン図形を描く
- ② そのような図形に次の式を当てはめる

$$\frac{(-1)^n (-1)^{n_l}}{n! (2\beta V)^n} \prod_{i=1}^n (r_i s_i | v | r'_i s'_i)$$

- ③ r, l の電子線に次の式を対応させる

$$g_r(i\omega_l) = (i\omega_l - \varepsilon_r)^{-1}$$

同時刻の場合は

$$(i\omega_l - \varepsilon_r)^{-1} \exp(i\omega_l 0)$$

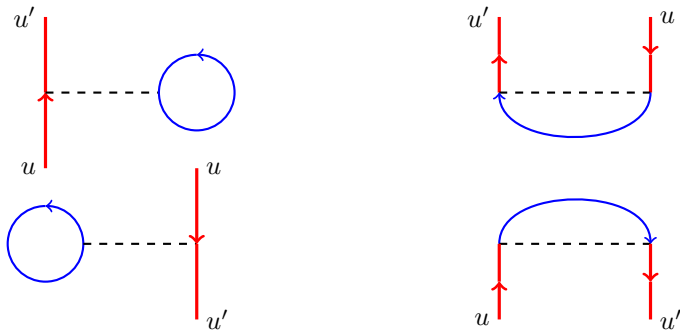
→ どの図形が当てはまる?

- ④ エネルギー保存則を考慮する

$$\omega_{l_1} + \omega_{l_2} = \omega_{l_3} + \omega_{l_4}$$

- ⑤ 外線の r, l は固定し, 他の変数に関して和をとる

図形と式の当てはめ方



$$\text{red line} \rightarrow : (i\omega_l - \epsilon_r)^{-1}$$

$$\text{blue line} \rightarrow : (i\omega_l - \epsilon_r)^{-1} \exp(i\omega_l 0)$$

この手順に従った結果が次の通り

$G_r(i\omega_l)$ の 1 次の寄与

$$\begin{aligned}
 & \frac{1}{2\beta V} \frac{1}{(i\omega_l - \varepsilon_r)^2} \sum_{sm} [(rs|v|rs) + (sr|v|sr) \\
 & \quad - (rs|v|sr) - (sr|v|rs)] \frac{\exp(i\omega_m 0)}{i\omega_m - \varepsilon_s}
 \end{aligned} \tag{47}$$

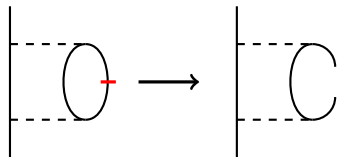
この方法を $n = 2, 3, \dots$ と次数を増やした場合でも計算していくことで、 $G_r(i\omega_l)$ を求めることが可能

- ① T 指数関数および T 記号の性質
- ② グリーン関数に対する表式
- ③ グリーン関数に対するファインマン図形
- ④ 自己エネルギー (self-energy)
- ⑤ 電子ガスへの応用

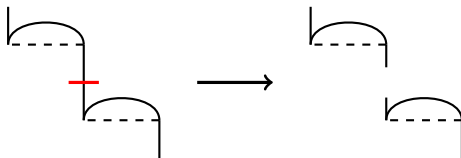
自己エネルギー

固有 (proper) な図形を描いたときの、
外線以外の部分を自己エネルギー部分といい
自己エネルギー部分からのグリーン関数への寄与を
自己エネルギー ($\Sigma_r(i\omega_l)$) と書く

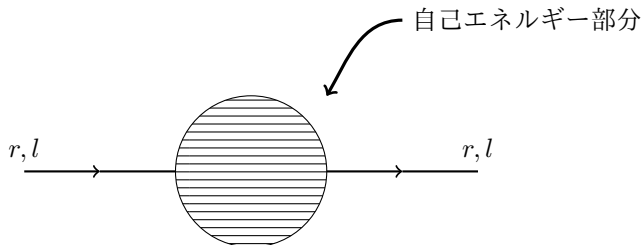
- 固有 (proper): 分裂しないとき



- 非固有 (improper): 分裂するとき



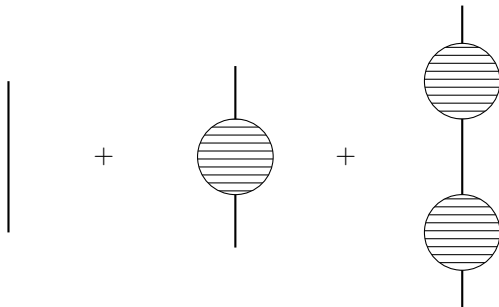
自己エネルギーを用いると,



上のファインマン図形は次のように表される

$$\frac{1}{(i\omega_l - \varepsilon_r)^2} \Sigma_r(i\omega_l) \quad (49)$$

一般的に自己エネルギー部分を含む図形の和で、グリーン関数を計算することができる



$$\begin{aligned}
 \Leftrightarrow G_r(i\omega_l) &= g_r(i\omega_l) + g_r^2(i\omega_l)\Sigma_r(i\omega_l) + g_r^3(i\omega_l)\Sigma_r^2(i\omega_l) + \cdots \\
 &= \frac{1}{i\omega_l - \varepsilon_r - \Sigma_r(i\omega_l)}
 \end{aligned} \tag{50}$$

準粒子のエネルギー

$$z - \varepsilon_r - \Sigma_r(z) = 0 \quad (51a)$$

- ① T 指数関数および T 記号の性質
- ② グリーン関数に対する表式
- ③ グリーン関数に対するファインマン図形
- ④ 自己エネルギー (self-energy)
- ⑤ 電子ガスへの応用

(9.57) より

トーマス-フェルミの近似

$$\frac{v(\mathbf{q})}{\varepsilon(\mathbf{q})} = \frac{e^2}{\varepsilon(q^2 + q_T^2)}$$

電子ガスの低温比熱は

$$\frac{m}{m_t} = 1 - \frac{\alpha r_s}{\pi} \left(1 + \frac{1}{2} \ln \frac{\alpha r_s}{\pi} \right) \quad (67)$$

ただし $k = k_F$ 付近で

$$E_k = \frac{\hbar^2 k^2}{2m_t}$$

であり, また微細構造定数 α は以下の通り

$$\alpha = \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0\hbar c}$$

... クーロン相互作用は電子比熱に数パーセントの補正を与える

リング近似との関係

リング近似を用いたときの Ω' を算出すると

$$\begin{aligned}\Omega' &= \frac{1}{2\beta} \sum_{qn} \int_0^1 \left[\frac{v(q)\Pi_n(q)}{1 + gv(q)\Pi_n(q) - v(q)\Pi_n(q)} \right] dg \\ &= \frac{1}{2\beta} \sum_{qn} [\ln \{1 + v(q)\Pi_n(q)\} - v(q)\Pi_n(q)]\end{aligned}\quad (71)$$